

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372501169		
法人名	社会福祉法人 サンビジョン		
事業所名	グループホーム第二グレイスフル春日井		
所在地	春日井市牛山町3195-1		
自己評価作成日	平成22年2月3日	評価結果市町村受理日	平成22年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372501169&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート
所在地	愛知県名古屋市長和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	平成22年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日のテレビ体操や片足上げ体操を取り入れたり、施設内を散歩するなど健康管理に気をつけています。暖かい時期には一緒に食材の買出しにでたり、畑での水遣りなどの活動を行っています。冗談を交えた笑いのある会話を楽しめるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、介護老人福祉施設やデイサービスセンター等がある複合施設の2階部分にあり、行事やレクリエーション等で施設利用者等と交流を図ることや、設備等を活用することで柔軟にサービスを提供している。また、施設として地域との関係の構築に努めており、介護予防教室の実施や行事への参加の呼び掛け等を積極的に行い認知症・施設・ホームの活動の理解を深めている。ホームでは、日常生活の中で利用者の何気ない「つぶやき」を拾い、ニーズを把握し日々の支援に反映することで利用者本位の支援を実現している。また、今回実施した家族アンケートも、利用者・家族の安心に届いた結果となっており、施設・ホームの取り組みが実を結びつつあるといえる。今年度新たに就任した管理者をはじめ職員は、ホームの活動に対し非常に意欲的な姿勢であり、新たな体制の下、今後も介護という枠にとらわれない多岐にわたる活動を目指していただき、ますますの支援努力と、取り組みの充実を期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・ホーム独自の理念を掲げ、日々取り組んでいます。玄関・事務所内に掲示、職員手帳を携帯し理念の共有を図り、実践に向けて取り組んでいます。	管理者・職員は、掲げた理念を理解し利用者一人ひとりに何が必要かについての把握に努め日常業務に反映できるように話し合う機会を設け意思の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶や施設行事に参加していただけるよう声を掛け、顔なじみの関係が築けるようにしています。施設内で開催される、地域の方の集まりにも参加させていただき、交流を深めています。	町内会に参加し地域の行事への積極的な参加を行っている。また、介護予防教室の実施等を行い、地域住民へ認知症等の理解を深める取り組みや、併設施設で行われる行事へ地域住民の参加を呼び掛けホームの活動の理解を求めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム職員が介護予防教室で講師を務め、「認知症」についてお話をさせていただいています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で結果報告を行い、様々な視点(ご家族・区長・市町村職員・地域包括職員など)からのご意見をいただき、ケアの向上に活かしています。	定期的に運営推進会議を実施し、ホームの活動報告等を行いホームの取り組みの理解を深めている。また、運営推進会議で参加者から出た意見等を運営に反映することでサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と随時、報告・相談を行い、運営・サービスの向上に協力を求めています。	ホーム運営に関する相談・報告を通じ、ホームの取り組みを伝えている。行政担当との意見交換・情報交換から、ホーム運営に活かせる内容を聴取し、適切なサービス提供に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の立場にたってケアを考え、身体拘束を行う弊害を理解しています。また、鍵を掛ける事の弊害も理解し、入り口に鍵を掛けず、自由に出入りができるようにしています。扉にセンサーを設置し、出入りの確認ができるようにしています。	身体拘束排除における方針を掲げ、職員に対し周知徹底を行い、身体拘束排除に向けて取り組んでいる。玄関においては、日中は施錠せず、センサーチャイムにて安全確保をしており、入居者の自由な生活に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束廃止について、理念、法人独自のケア教本にも組み込まれていません。日常のケアから相手の立場に立って考え、虐待・拘束のないよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内グループホーム(6箇所)と合同勉強会で、地域包括支援センター職員に講師を依頼し、勉強会を開催。現在、成年後見制度を利用されている方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に職員よりご説明をし、疑問点などには随時お答えしています。契約解除時(退所)にもお話をする時間を設け、納得していただけるよう努めています。また、少しの時間でも一対一でお話をする時間が持てるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置し、管理者が確認を行っています。ホーム内では「つぶやき」を集め、迅速に対応し、ご利用者の意向に添えるように努めています。	窓口や意見箱を設置し、家族の面会時に直接意見・要望等を確認している。挙がった意見・要望等に対しては、周知・検討し、適切な対応を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面会時・運営推進会議時にお話を伺ったり、満足度アンケート調査にご協力を頂き、ご意見を求めています。契約時(契約書に記載)にオンブズマン・近隣市町村の相談窓口・ホーム窓口をご案内しています。	職員の意見・提案等を確認し、運営に反映させている。管理者は、職員の意見や思いの把握に努め、職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や有給休暇の取得、勤続年数に応じた誕生日休暇の取得など働きやすい環境作りに努めています。希望部署への配置や研修への参加の機会や、日頃のケアについてQC大会で発表の機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修・職員からの希望研修には積極的に参加できるようにしています。資格取得(介護福祉士・介護支援専門員など)にむけて、各自スキルアップできるようサポートしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム(6箇所)と協力し、合同の勉強会・交換研修・交流が持てるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み担当者・担当ケアマネージャーより情報を収集し、困っていることやご希望の把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み担当者・担当ケアマネージャーよりご入居前のご様子やご家族の困っていること・ご希望の把握に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際に、ご本人の身体・精神状態を伺い、他職種と相談を行います。他サービスからも情報を収集し、ご利用についての見極めを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔、得意であった料理屋掃除の方法・野菜や花の名前等を教えて頂く等、「人生の先輩」として敬意を示して接しています。状況に応じ、一対一でお話を伺うように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事へ参加していただけるよう声をかけたり、美容院や病院受診など、ご家族にもケアに関わっていただけるよう、ご理解を頂いています。ご面会時にはご家族ともお話をする時間をいただいて、信頼関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会時間は設けず、いつでも来て頂けるようにしています。馴染みの場所の訪問についてはすべての利用者様に行っていないのが現状です。	家族と協力しながら、入居者の馴染みの場所や店等への外出を支援している。また、入居者の知人・友人が気軽に来訪できるよう施設を開放し、馴染みの関係が途切れないように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格・個性を大切に、利用者間での信頼関係を築いて頂いています。時にはレクリエーションや職員が間に入り、お互いを理解して頂けるように努めています。2～3人用のソファを設置し、自由に会話を楽しめるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要な情報提供やサポートを行い、現状把握に努めています。併設施設内に移動された際には、ご利用者様と一緒に面会を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・様子やつぶやきを集める事により、ご意向の把握に努めています。できる限りご本人の意向を尊重し、希望に添った暮らし方ができるよう努めています。	利用者の意思を尊重し、利用者本位の支援に努めている。また、職員は日頃から利用者の言葉に耳を傾け何気ない「つぶやき」から要望の把握・共有をし、介護計画・日々の支援へ反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人のバックグラウンドの把握を心がけています。入居後も情報収集、ライフマッピングの作成に取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居年数・心身状態に合わせて、現状把握に努め、情報交換や記録作成を行っています。入居後は特に一日の過ごし方、生活のリズムを把握し、職員間での情報交換に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常から、ご本人や家族の要望を伺ったり、常に問題提起を行い、生活の中で問題が起こった時にはケア会議を行っています。	利用者の日常の「つぶやき」からニーズの把握をし、現状に沿った介護計画の作成に努め、常に利用者に適切な支援を提供することができるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアマネージャーを中心に見直しを行っています。状態に変化が生じた場合には見直し期間前でも検討・作成を行い、ご家族へ報告を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族のご要望に添えるよう、他部所・他職種と連携し、サポートできるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々のご協力を頂き、ケアのお手伝いをいただいています。併設施設内の行事・職員との連携を図り、ケアの幅を広げています。地域の防災訓練に参加をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の内科医と協力体制を図り、月一度の往診、必要時にはご家族に医院・総合病院への受診を行っていただいています。	利用者・家族の理解と協力を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、内科医による月2回の往診支援を行うと共に、それ以外の医療機関(専門医等)にも同様に受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養併設であるため、必要時に特養看護師へ連絡し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には受け入れ病院への迅速な情報提供、関係機関への連絡を行えるように心がけています。また、症状が、重度化しないように、日常より健康状態の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様・ご家族のご希望にできる限り添えるように努めています。終末期に向けては、設備・知識・技術の整った期間と連携し、安心して過ごしていただけるよう尾ご家族へお話ししています。	家族意向の聴取、主治医・訪問看護との連携を図り、家族の意向にできる限り沿えるように取り組んでいる。適切な支援を受けることができるように、その都度関係者との話し合いを行い、対応・方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	晩協会に参加をしたり、緊急時の対応方法や心肺蘇生方法を目につく場所に掲示し、落ち着いて適切な対応ができるように勤めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には利用様にも参加をしていただき、避難方法・消火器の使い方を身につけています。地域の避難訓練にも参加を行い、施設残体で行う際には、地域の方にも声を掛けています。	定期的に消防避難訓練を実施し、非常災害時には利用者を迅速に避難誘導することができるように努めている。また、地域との関係を深めながら災害時・緊急時における協力の呼びかけを行い、地域との協力体制の構築を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう注意を払って対応を行っています。	利用者の尊厳を傷つけないように、個別の声かけや行動等に配慮している。個人情報に関しては、規定通りの取扱いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一対一で過ごす時間を作り、話をしたり、日常の「つぶやき」を集め、ご希望を知るように心がけています。自己決定を行えるように、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間(掃除・食事)は決めていますが、その他の時間・レクリエーションへの参加はご本人に決めていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方には、ご自分で行っていただき、そうでない方にも自分で選んでいただけるよう声かけを行っています。誕生日のプレゼントにおしゃれを楽しめるようなものをお贈りしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の力を見ながら、食材切りや洗い物、片付けなど協力をしていただいています。使用した食器は個々に片付けていただいています。	利用者が自然な流れで調理や配膳に参加できるよう配慮しており、訪問調査当日も利用者が職員と一緒に生き生きとした表情で調理・配膳を行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分チェックを行い健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には口腔ケアを行い、週1回義歯消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導の必要な方は排泄パターンを把握し、失敗の無いように声かけを行って支援しています。	自立を支援できるよう入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った声掛け・対応等を工夫しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、水分摂取や食事での工夫、運動により自然排便に努めています。必要な際には主治医と相談を行い、下剤の使用を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間を14時から18時までにして、ご本人の希望を聞きながら入浴をしていただいています。自立されている方や援助の必要な方などの状態の把握に努めています。	職員の押し付けではなく、利用者のその日の体調や意向を尊重することで、気持ちよく入浴できる環境づくりに配慮している。また、重度化にも対応することができる設備が整っており、多様なニーズに対応できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全個室で、ご本人の休みたい時に休んでもいただけるようにしています。就寝前には温かい飲み物を提供し、快眠できるように工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行い、薬の把握に努めています。新しい薬が処方されたときには注意して様子観察を行っています。服薬事故のないよう注意し、処方箋の確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の力に合わせて、役割(ベランダ掃除・新聞を取りに行く・洗濯物の片付けなど)をもっといただけるように支援しています。体を動かすレクリエーションや知的な活動など、張り合いや喜びのある生活ができるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材購入に出かける際、利用者様にも声を掛けて外出しています。天候が許せば、数人で屋外へ散歩に出かけるようにしています。	日常的に外出の機会を設け、ホームの中に閉じこもることがないように努めている。利用者や職員が近くのスーパーへ食材の買出しに出かけたり、利用者からの外出希望があれば、極力叶えることができるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方にはご自分で小額のお小遣いの管理をしていただいています。買い物時、ご自分の物を購入される際にはご本人に支払っていただくよう支援し、購入しすぎないように必要な支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時に電話や手紙の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごしていただけるよう、毎日ご利用者の方と清掃を行い、季節・時間に応じた光や音量、室温の調整を行っています。季節の花や活動の写真を掲示し、工夫に努めています。	共同ペースは空調・温度・光・音量等は適切であり、清潔保持の配慮も感じられた。展示物等を活用し、季節感を感じさせるような環境整備をおこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多人数用・一人用のソファを設置して、お好きな場所で過ごしていただけるようにしています。お一人になりたいときには居室で過ごしていただけるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活必需品(寝具・家具・装飾品)はご自宅よりなじみのものをお持ちいただき、ご自分の居室作りを行っています。写真やご自分で作られた作新などを飾り、その方らしい居室作りに努めています。	入居者の希望により自由に馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が送れるよう配慮されており、生活歴に合わせた居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内に手すりやナースコールを設置し、ご本人の身体能力に合わせて使用していただけるよう広く設計し自在に動けるようにしてあります。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	町内会に参加し地域の行事への積極的な参加を行っている。また、介護予防教室の実施等を行い、地域住民へ認知症等の理解を深める取り組みや、併設施設で行われる行事へ地域住民の参加を呼び掛けホームの活動の理解を求めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	定期的に運営推進会議を実施し、ホームの活動報告等を行いホームの取り組みの理解を深めている。また、運営推進会議で参加者から出た意見等を運営に反映することでサービスの質の向上に努めている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	ホーム運営に関する相談・報告を通じ、ホームの取り組みを伝えている。行政担当との意見交換・情報交換から、ホーム運営に活かせる内容を聴取し、適切なサービス提供に活かしている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	窓口や意見箱を設置し、家族の面会時に直接意見・要望等を確認している。挙げた意見・要望等に対しては、周知・検討し、適切な対応を図っている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、介護老人福祉施設やデイサービスセンター等が併設している建物の2階部分にある。行事やレクリエーション等で交流を図り、柔軟にサービスを提供している。また、施設として地域との関係の構築に努めており、介護予防教室の実施や行事への参加の呼び掛け等を行い認知症・法人の活動の理解を深めている。職員は、日常生活の中で利用者の「つぶやき」を拾い、ニーズを把握し日々の支援に反映することで利用者本位の支援を実現している。また、今回実施した家族アンケートも、利用者・家族の安心に届いた結果となっており、ホームの取り組みが実を結びつつあるといえるだろう。今年度新たに就任した管理者をはじめ職員は、ホームの取り組みに対し非常に意欲的な姿勢であり、新たな体制の下、今後も介護という枠にとらわれない多岐にわたる活動を目指していただき、ますますの支援努力と、取り組みの充実を期待するところである。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。